

【鍋島賞（最優秀演題賞）】

久保田 学

量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
脳機能イメージング研究部 脳疾患トランスレーショナル研究チーム
研究員

研究課題、タイトル

Alterations of central metabotropic glutamate receptor 5 binding and glutamate concentrations by food intake

コメント

2018年6月16日から19日にウィーンで開催されました第31回国際神経精神薬理学会(31st CINP World Congress of Neuropsychopharmacology; CINP2018)に参加しましたので報告いたします。

本学会では中枢神経疾患に関わる基礎から臨床までのさまざまな分野の講演や発表が行われていました。抑うつ症状等への効果が期待されるケタミンの作用・有用性やその他新規創薬ターゲットに関するもの、またそれ以外にも精神病症状や過活動症状に対するドーパミンの役割を新たな視点から提唱するものなど、非常に興味深い演題が多くみられていました。その一方で、治療抵抗性の統合失調症やうつ病に対するアプローチをどのようにすべきか、また、そもそも精神神経疾患のheterogeneityの問題をどのように克服して背景病態に迫るべきかなど、まだまだ解決されていない課題も多くみられました。

私のポスター発表に関しては、ヒトでみられた現象をげっ歯類を用いて検証するというトランスレーショナルな実験デザインのためか、様々な分野の研究者の方に興味を持っていただき、ときにはお互いの最新の論文未発表データを交えながらの突っ込んだディスカッションも行うことができ、とても有意義な時間を過ごせたと考えております。

6月のウィーンは日が長くて天候にも恵まれ、学会中も快適に過ごせました。ちょうどW杯の時期にあたり、夜にはオープンカフェやレストランに設けられた大型スクリーンをみながら白熱して試合観戦している現地の方々の様子が垣間見られ、熱気を感じました。

今回、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for CINP 2018および鍋島賞（日本神経精神薬理学会 最優秀演題賞）という大変栄誉な賞をいただきました。受賞にあたり、学会の先生方や私の所属機関および研究協力施設の先生方をはじめ、多くの方々に大変お世話になりました。この場を借りまして、心より厚く御礼申し上げます。今後の神経精神薬理領域の発展にさらなる貢献ができますよう研究を進めて参ります。

HADDAR Meriem

Neuropharmacology and Pharmaceutical
Therapy Laboratory, Toyama University

研究課題、タイトル

Attenuation of the formation of CPP by methamphetamine in
Shati/Nat8l overexpressed mice in the prefrontal cortex

コメント

From 16 to 19 June 2018, I had the pleasure to join CINP 2018 for the 31st CINP World Congress in Vienna (Austria). Vienna was really a beautiful city with its historic and exceptional architecture. Attending the conference was very interesting and beneficial with its diverse sessions and symposiums....and also by presenting my poster. This gave me different perception and insights. For example, the symposium with Dr Rita Goldstein... emphasizing the importance of the prefrontal cortex in drug addiction...
Joining the Asian Nights organized by The Japanese Society of Neuropsychopharmacology (JSNP) was a great experience for me. And I am glad that I received the JSNP Excellent Presentation Award. Finally, I would like to thank JSNP for the award and also for the delightful reception.



宇野 恭介

富山大学大学院医学薬学研究部（薬学）薬物治療学研究室

研究課題、タイトル

Sexual differences of cognitive impairment induced by deletion of Shati/Nat8l

コメント

2018年6月16日から19日までオーストリアのウィーンで開催されました第31回 国際神経精神薬理学会CINP World Congress of Neuropsychopharmacologyに参加いたしました。また、今回JSNP Excellent Presentation Awardを受賞させていただきましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

私にとっては人生3回目のCINPへの参加で、学生時代の2008年ミュンヘン大会、2014年のバンクーバー大会以来の参加でした。ウィーンで開催されたCINP2018の学会場であるオーストリアセンターはウィーン旧市街から地下鉄で約20分のドナウ川に面した場所にありました。学会場はVIC（Vienna International Center）の一部であり、国連の様々な事務所があるオフィス街にあります。空港からも直通の高速バスで1時間弱の距離にありまして、非常にアクセスのよい立地でありました。航空機の都合上、welcome receptionまで時間がありましたので旧市街地も少し観光を楽しむことができ、モーツァルトの世界に浸ることができました。

臨床研究と基礎研究の発表があるCINPは、基礎研究ばかり追い求めている私にとってはとても斬新なものであり大変勉強になりました。今回、私は研究室で飼育しているマウスを用いた認知機能障害についての発表をさせていただきましたが、学会期間を通して、主に現在研究を行っている統合失調症のセッションや脳回路網のセッションを聴講させていただきました。

今回は学会二日目にCINP、AsCNP、JSNPが主催するAsian Nightが開催され200名以上の方が参加されました。CINP presidentのKrystal先生、president-electのKasper先生をはじめ多くのCINP主要メンバー、著名な研究者の方々にもお越し頂け、非常に素晴らしき交流ができたのではないかと思います。私もスタッフとして携わらせていただきましたが、主催していただいた北市先生はじめ、多数の先生方が協力していただいたことにより、盛大なものとなりました。自身のポスター発表では、多数の先生方とディスカッションさせていただき有益な情報を多数いただきましたが、自分の英語力の未熟さを痛感させられ、これもまた大きな課題であると認識させられました。

末筆となりましたが、JSNP Excellent Presentation Awardを受賞させていただきましたことを誠に光栄に思います。常日頃よりご指導ご鞭撻を賜りました皆様、及び学会関係者の皆様に深く御礼申し上げます。この受賞を糧に日々精進して参りたいと思いますので今後ともよろしくお願い致します。

。



清水 佐紀

大阪薬科大学 薬品作用解析学研究室

研究課題、タイトル

Synaptic vesicle protein 2A regulates the susceptibility to methamphetamine-induced hyperactivity in rats

コメント

この度、2018年6月16日～19日にオーストリア（ウィーン）にて開催された第31回国際神経精神薬理学会（31th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology: CINP2018）に参加いたしました。私にとりまして海外で開催される国際学会への出席はAsCNP2015（台北）以来2度目となり、前回と同様に、ポスター発表という貴重な経験をさせていただきました。

自身の発表に関しては、国際学会での発表に初めは緊張しておりましたが、数名の方がポスターの内容に関して気さくに質問してくださり、とても良い雰囲気です。質疑応答の時間を過ごすことができました。また同時に、今後は自身の英語力の向上に努めていきたいと痛感いたしました。また、シンポジウムに関しては、ケタミンに関する講演を多く聴講したように思います。特に、Dr. Oliver Howes先生らによる「GABA regulation: from mechanism to novel therapeutic targets」のセッションにおいて、ケタミンによる中脳ドパミン神経の活性化やドパミン合成の制御に関する内容がとても印象的であり、ケタミンが世界的にも現在注目されていることを実感いたしました。他にも、池田和隆先生らによる「Dopamine signal intensity in neuropsychiatric disorders: etiology and therapy」のセッションにおいて、DA deficient mice あるいはDAT-KO miceを用いた精神行動の評価に関するご講演もとても興味深く勉強になりました。

最後になりましたが、今回の発表に際しまして、日本神経精神薬理学会よりJSNP Excellent Presentation Award for CINP2018を頂きまして大変光栄に存じます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、発表に際して終始ご指導賜りました大野行弘教授、さらに、共に研究に取り組みました薬品作用解析学研究室の皆様にも深く感謝いたします。今後はこの受賞を励みに、神経精神薬理分野における研究の発展に少しでも貢献できますよう尽力してまいりたいと存じます。

谷 英明

慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

研究課題、タイトル

Comparison of emotional cognition assessed with fear conditioning by interpersonal conflicts in patients with depression and schizophrenia and healthy subjects

コメント

このたび、2018年6月16日-19日にオーストリア・ウィーンにて開催されました第31回国際神経精神薬理学会（31st Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium）に参加し、JSNP Excellent Presentation Award for CINP 2018を受賞いたしましたことをご報告いたします。このような名誉ある賞を頂く事ができ、大変光栄に思っております。

今回、私は2012年のストックホルム大会以来のCINP参加となりました。発表内容は、皮膚電位反応で測定した対人葛藤刺激に対するうつ病および統合失調症患者の情動学習の特徴です。そして、うつ病患者では対人葛藤刺激の消去が不良であること、それは個人のもつ情動制御パターンによることが示されました。また、統合失調症患者では情動認知プロセスの障害が示唆されました。

学会場はさすがCINPというだけあって、ポスターも数多く、セッションも熱気にあふれていました。シンポジウムでは、向精神薬の新たな命名法として、Neuroscience-based Nomenclature (NbN) が提唱されておりました。既存の適応疾患による分類ではなく、薬理的プロファイルなどの科学的知見に基づいて向精神薬の分類を行う試みですが、これは根拠に基づいた治療、そして個別化医療の実現に向けて非常に重要な取り組みであると感じました。今後、自身でも精神疾患の病態生理に迫る研究や、バイオタイプに基づいた治療法の確立を目指したいと思いました。

学会の合間の時間も、ドナウ川沿いのジョギングで汗を流したり、ウィーン郊外のホイリゲをアコーディオンの生演奏とともに堪能したりと、すっかり満喫しました。

最後になりましたが、今回の受賞に際し、ご指導頂きました諸先生方、また学会関係者の皆様に深く御礼申し上げます。精神薬理分野の発展に貢献できるよう精進して参りたいと思っておりますので、今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

坪井 貴嗣

杏林大学医学部精神神経科学教室

研究課題、タイトル

Demographic and therapeutic characteristics of Japanese outpatients with bipolar disorder: a nationwide survey

コメント

2018年6月16日から19日にかけてオーストリアのウィーンにて開催されました第31回国際神経精神薬理学会(31th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology; CINP2018)に参加いたしました。そして、CINP2018ではJSNP Excellent Presentation Award for CINP2016を受賞させていただき、大変光栄に存じます。本学会では2016年に行った全国の精神科診療所に通院する双極性障害外来患者に関する実態調査の結果をポスター発表させていただきましたが、本研究はMULTICENTER treatment SURvey for BIpolar disorder in Japanese psychiatric clinics (MUSUBI-J)として今後更なる解析と調査を行っていく予定です。私自身、過去数回CINPに参加した経験がありますが、今回はヨーロッパでの開催にもかかわらず多くの日本人研究者が参加しており、アジアにおける精神薬理分野の隆盛がうかがえました。また学会外ではウィーンの歴史的な街並みとオーストリア料理を満喫することができ、充実した国際学会出張となりました。最後に、Excellent Presentation Award for CINP 2018の受賞に関しまして、ご指導頂きました先生方、学会関係者の皆様に、この場を借りてあらためて深謝致します。蛇足ではございますが、中高の同級生である久保田学君と一緒に受賞できたことは望外の喜びとなりました。これからより一層、研究活動に邁進し少しでも社会に献身していく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



楠井 優香

富山大学大学院医学薬学教育部（薬学）
博士前期課程（修士）1年
薬物治療学研究室

研究課題、タイトル

Attenuation pharmacological effects of methamphetamine by Piccolo knockdown in the nucleus accumbens in mice

コメント

2018年の6月16日から19日にわたってオーストリア・ウィーンで行われた第31回国際神経精神薬理学会（The International College of Neuropsychopharmacology: CINP）に参加させていただきました。私にとって初めての学会だったのでとても緊張していましたが、無事に発表を終わることができ、さらにはJSNP Excellent Presentation Award for CINP2018をいただきまして、大変光栄に思います。有難うございました。

私が最後に海外に行ったのは5～6年も前のことで、かつヨーロッパに行くのは初めてでしたので、大変楽しみにしておりました。ウィーンの天候は、今住んでいる富山とは違いカラッと晴れていることが多く、とても過ごしやすく感じました。

Attenuation pharmacological effects of methamphetamine by Piccolo knockdown in the nucleus accumbens in mice (Yuka Kusui, Kyosuke Uno, Bin Ge, Seiya Morishita, Yoshiaki Miyamoto, Shin-ichi Muramatsu, Atsumi Nitta) のタイトルでポスター発表をしましたが、初めての学会で英語での発表ということもあり緊張はしていましたが、学会の雰囲気などを感じ、とても良い刺激になりました。また基礎研究と臨床研究が融合した学会であったことから、基礎研究を普段行っている私としては多方面の方からお話を聞くことができ、大変勉強になりました。

最後になりますが、JSNP Excellent Presentation Award for CINP2018の受賞は、御指導いただきました先生方や研究室の皆さまの御協力があったからです。有難うございました。



豊島 学

理化学研究所 脳科学総合研究センター 分子精神科学研究チーム

研究課題、タイトル

Examination of the effects of carbonyl stress elicited by GLO1 gene knockout in human iPS cells

コメント

2018年6月16日から19日まで、オーストリアのウィーンで開催されました第31回国際神経精神薬理学会（31st The International College of Neuropsychopharmacology : CINP2018)に参加致しました。CINPへの参加は、2016年7月に韓国で開催されましたCINP 2016に続き、2回目の参加となります。学会開催中のウィーンは、梅雨時期の日本とは違って連日快晴が続きとても過ごしやすく、学会の合間にウィーン市内を観光することも出来ました。私は、患者さん由来のiPS細胞を用いて、統合失調症の神経発達障害の分子メカニズムの解明を行っており、本大会では、カルボニルストレスが神経発達に与える影響についてポスター発表を行いました。また、22q11.2欠失症候群の患者さん由来のiPS細胞を用いた解析も行っているため、Josh Gordon博士や廣井昇先生の22q11.2欠失症候群モデルマウスについての発表は大変勉強になりました。

最後になりましたが、本演題にてJSNP Excellent Presentation Award for CINP 2018を受賞することができまして、大変光栄に思います。この場をお借りしてご指導ご鞭撻を賜りました先生方に厚く御礼申し上げます。私は工学部出身の基礎研究者であるため、臨床の現場や患者さんと向き合うことは大変少なく、自分の研究だけに目を向けてしまい、その研究が患者さんに繋がっていることに関しては、疎かになってしまうことがあります。CINPのような学会への参加を通じて、基礎と臨床における最新のテーマや課題に触れ、患者さんに繋がる研究を目指して、今後も日々研究活動に精進したいと思います。